

Q1 より時代に即した教材を取り上げたい

東日本大震災後にチャリティーソングとして生まれた「花は咲く」(p.4)、生徒たちになじみ深い「ピタゴラスイッチ」(p.71)、2012年に映画化されて大ヒットしたミュージカル『レ・ミゼラブル』から「I Dreamed A Dream」(p.38)などがあります。

Q2 少人数の授業で活動のメリハリがつかなくて…

3人以上なら何人でも対応できる「Doodle Piano」(p.68)はカノンを応用したアンサンブルで、演奏順序を工夫すれば3部形式やロンド形式に発展し、楽曲の形式も学べます。音楽Ⅲの履修者なのでから2人1組で「Somewhere」(p.42)の2重唱だってできることでしょう。「人と人が向き合い触覚でコミュニケーションする音楽」として作曲された「Face to Face」(p.64)は少人数授業でこそ取り上げたい曲です。

Q3 音楽Ⅲならではのレベルの高い音楽に取り組みたい

合唱ではフランク「Panis Angelicus」(p.51)、モーツァルト「Lacrimosa」(p.54)、木下牧子「鷗」(p.56)というクラシックの大本流を揃えています。歌曲もドイツ、イタリア、日本だけでなくフランスからフォーレ「Lydia」(p.27)、ノルウェーからグリーグ「Ich liebe dich」(p.30)を収載しています。創作は、簡単な楽曲分析を交えた「特徴ある音楽をつくろう」(p.82)で学習の集大成となる作品づくりに取り組みます。

Q4 ちょっと目先の変わる教材が欲しい

それではみなさんでお茶屋遊び……とはいきませんが、「金毘羅船々」(p.50)を手遊び付きでやってみるのはいかがでしょう。インターネット上に参考になる動画がたくさんあります。併せて「会津磐梯山」(p.50)も取り上げると、日本民謡の持つ陽気なパワーを存分に味わえます。

進路別 押さえておきたい教材

●音楽大学に進学したい生徒には……

音楽文化への理解を深める「音楽を読む」(p.76)では、楽譜をより深く読み解くために、作品の成立に対する考え方や楽譜のエディション、移調譜などについて学ぶことができ、生徒の視野を広げます。また、創作領域では「12の音を使って音楽をつくる(ミュージック・セリエル)」(p.85)や「音の風景(サウンド・モンタージュ)」(p.85)を取り上げており、音楽Ⅰ・Ⅱの音楽史の学習と併せて実践できます。

●保育士や幼稚園・小学校教諭になりたい生徒には……

保育系や幼稚園・小学校教諭の仕事には質の高い童謡や唱歌が欠かせません。入学試験で弾き歌いを課している大学などもありますが、生徒は意外と曲を知らないことが多いようです。「歌い継ぎたい愛唱歌」(p.14)として収載している「春の小川」「海」(「松原遠く…」)「村祭り」「ペチカ」は必ず押さえておきましょう。「新・日本の詩情」(p.72)では「春が来た」「うみ」(「海は広いな…」)「赤とんぼ」「スキー」を器楽のメドレーで演奏することができます。「高校生の音楽1・2」にも唱歌を豊富に収載していますので、ぜひ歌ってみてください。